



実習生寮裏庭
にある
「アジ研桜」。

2019.4.1 撮影

4月に入り、今年もアジ研周辺は桜の花で彩られています。実習生寮裏庭のアジ研桜は、今年も綺麗な花を咲かせました。昼休みや放課後は、桜の前で写真を撮る実習生の皆さんで賑わっています。週末には、学校周辺の公園や思川沿いの桜並木まで遠征？した実習生もいたようです。毎年のことですが、厳しい寒さも和らぎ始め、桜が咲き乱れるこの時期に来日する実習生の皆さんは、本当にラッキーだなと思います。登下校時の皆さんの足取りも軽やかに見えてきます。ただ、この時期に実習実施機関に配属される皆さんは、新入社員の入社や人事異動直後なので、とても慌しい中での実習開始を余儀なくされていることでしょうか。それを考えると、4月の来日も一長一短なのかもしれません。いずれにしても、4月は始まりの季節。私達日本語講師・スタッフも、新しい年度を迎え、また新たな気持ちで、実習生の皆さんと向き合っていきたいと思います。

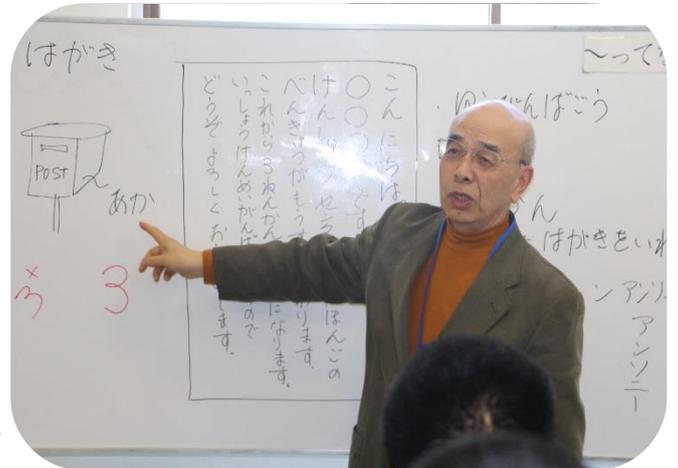
あじけんスコープ Vol.73

講師ファイル:菅原 顕

初めまして。菅原顕（すがわら あきら）と申します。技能実習生は、様々な夢や目標を持ち、希望と不安の中、来日し、文化・習慣等が異なる日本での最初の1ヶ月を当校での日本語学習に費やします。私が担当する時間には限りがありますが、それでも講習を無事に修了し、巣立って行く時、目をキラキラさせながら、「先生、これからもっと勉強します」と話されると、目頭が熱くなります。

私は、この講習期間中、日本語指導に加えて、2つの事を重視しています。それは、組織の一員としての自覚（意識改善）と、規律を守る行動（規律性）の習慣化です。この2点は、どこの実習先でも必ず求められるものだと思います。また、一人で来日している実習生には、特に心配りをします。実習先で気後れすることなく、実習が出来るよう自信を持たせるのも、大事な仕事だと思っているからです。教え方にゴールはありません。日々新たに、常に新鮮な気持ちで、実習生の皆さんに接することも大切だと考えています。

今日も新しい実習生が待つ教室に、初日の心構えで向かっています。



今月の実習生



アジ研桜をバックに2ショットに納まっているのは、本校初の双子の兄弟で来日し、現在同じクラスで日本語学習に励んでいる中国人実習生、佟健（トウケン）さんと、佟強（トウキョウ）さんです。

向かって左グレーのパーカーがお兄さんの健さん、右の黒パーカーが弟の強さん。双子なので年齢はもちろん同じなのですが、教室では健さん（兄）が強さん（弟）をリードすることが多いようです。

また、2人とも明るい性格で、他の国からきたクラスメイトとも、身ぶり手ぶりを交えて、片言の日本語ではありますが、楽しそうに談笑する姿が見られています。

2人は実習実施機関も同じなので、これからも兄弟二人三脚で、実習に取り組んでいくことでしょう。健さん、強さん2人で力を合わせて、日本での技能実習を、頑張ってください！

あじけん流日本語授業

～日本語講師の介護実践研修～

今月は、当校日本語講師陣を対象に行なわれた介護実習生への日本語指導に関する校内研修会の様子をご紹介します。

介護実習生の入国後講習にあたっては、「日本語」のほか、「介護の日本語」について学ぶことになっているので、日本語講師が「介護」の知識を身に付けることが望めます。

そこで、今回は茨城県にある社会福祉法人泰仁会のスタッフで、EPA（経済連携協定）で来日する介護福祉士候補生の受け入れと教育を担当している田中良和さんを講師に迎え、研修を行いました。午前中は「介護」の考え方や、田中さんが実際にEPAの候補生に関わってきた中で、外国人に介護を指導する上で苦労した点や、工夫した点などを座学で学びました。午後は、実際に車椅子体験や、ベッド上での体位変換、移乗、視覚障害の擬似体験などの演習を中心に学びました。介護のイメージをつかむことで、そこで必要とされる日本語のイメージがわき、有意義な講習となりました。参加した講師陣からも、「介護職のイメージが掴めたので、今後教えやすくなった」「実際に体験するのと、頭で理解をするのはやはり違った」などの感想がありました。

今後、益々多様化していくことが予想される技能実習制度において、幅広い分野での日本語教育に対応出来るように、講師一丸となって、これからも研鑽を積んでいきたいと思えます。



座学での介護講習



車椅子体験



移動介護体験



視覚障害体験